2024年10月26日

人権ネットワーク八幡　NEWS

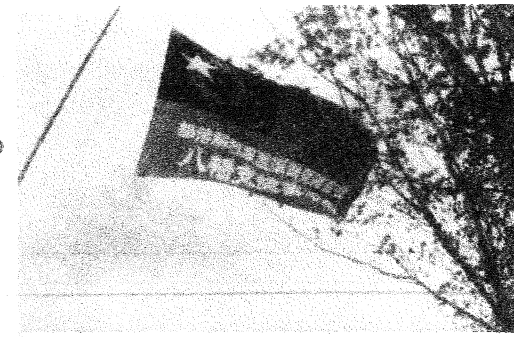
事務局　〒523－0857 近江八幡市八幡町170(旧八幡教育集会所内)
電話　【携帯】　080－2525－7114(高坂)
【メール】 Tko.koj1224@yahoo.co.jp

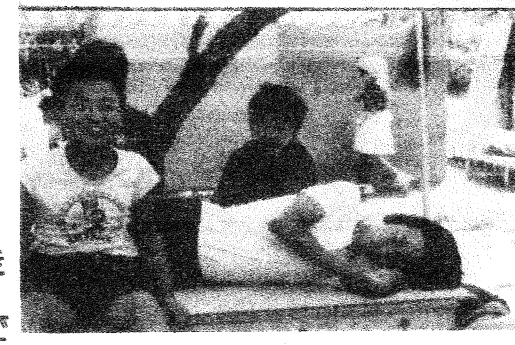
＜ARCHIVE/アーカイブ＞

事務局会議に、八幡支部青年部の第3回解放キャンプに関する記録が届いた。近江平安教会の鳥井新平さんが、同志社大学の倉庫に眠っていた『月間キリスト』(1970年10月号)という冊子を発見し、その中の記事をコピーして持ち込まれた。40回も開催された「解放キャンプ」、しかし写真は残っていてもキャンプの様子が分かる記録・記事は、ほとんど残っていない。大阪万博開催1970年の貴重な資料が届いたのである。

「熱く燃える若者の湖」

①　がんばれ！ター坊





いちばん小さいター坊は、もうこの浜の砂をけたてて何周走っただろうか。

キャンプファイヤーの薪が、やたらにデッカかったし、だから燃え上がった火も、その火をかこんですわったみんなの輪もデッカかった。デッカイものずくめの中で、いちばん小さいター坊は、ハンカチを握りしめてけんめいに走る。

「しっかりせい！」叱咤のことばがとぶと、ター坊はいちだんとはげしく砂をけたてる。

東京からやって来て、この滋賀県下の未解放部落をまわって、子どもと遊んだり、青年たちと話し合ってきた解放キャラバンのおねえさんや、おにいさんたちの歌やゲームは上品だ。いっしょうけんめいマネをしてみたけれど、そろそろ退屈してきた。さっきからこいつをやりたくてウズウズしていたのだ。ハンカチおとし。

ジッとすわっていると、デッカイやぶ蚊にシャツの上からでもチクッとやられる。走っていれば蚊もよりつかない。汗にまみれ、砂にまみれ、涼風に吹かれ、足腰が立たないくらいに走る。こいつがいちばんヤ。ター坊は、デッカイ上級生に追いつかれ、タックルされて、頭の中まで砂でジャラジャラだ。それでも走る。ハンカチを握って。

「解放キャンプ」(第3回)とはいうが、そんなにむずかしい議論がとび出すわけではない。未解放部落の青年たちは、差別の現実を、それとの闘いの苦しさを、そして挫折感を語る。そして、そうでない者たちは、無知であったことを、差別の深い根が自分たちの中にあることを知る。差別をされている者も、今まで差別とは無関係だと思っていた者も、ひとしく、そのようなおのれを解放すべきことを確認する。

広々とした湖を前にした焼けるような砂浜で、しばらくの間ともに生活した、未開放部落の青年たちと教会の青年たち(そもそもこんな区別も、ここではまったくナンセンスなのだが)は、こうして"ともに生きる"ことが大きな闘いであることを知る。それはまた、自分自身との闘いでもあるのだ。

夜明け、砂の浜は、きのうの太陽の熱を放出し切って冷たくひえる。毛布にくるまっていても寒い。青年たちは、おたがいの肌のあたたかさに守られて眠る。

この青年たちが、いま、やがて同じような闘いを経験するだろう子どもたちを、声をからして声援するのだ。

がんばれ！ター坊。

＊未開放部落という現在では不適切とされる表現がありますが、原文のまま掲載しました。この記事には「クールな湖に、ホットな若者たち」という第2章がありますので、続編は日を改めて掲載します。

写真は、1977～78年頃で、新しい世代の青年(新生青年部)が中心となって活動するようになってからのものです。簡易テーブルで昼寝しているのは大学生だったセイハッちゃんだと思います。

あいみょん「ハルノヒ」
♪ 北千住駅のプラットホーム ～ 今昔

関西出身の人気シンガーソングライターのあいみょんのヒット曲に「ハルノヒ」という歌がある。東京の下町・北千住駅界隈を舞台にした少年の淡い恋を歌っている。

実は私も「北千住駅」には、ちょっとした思い入れがある。今から50年前の秋、初めて青年部（部落解放同盟）の仲間と狭山事件の集会に参加した。集会の前日、私たちが署名活動に出かけたのが北千住駅前であった。

小雨が降る中、レインコートをはおって声を枯らして「石川一雄さんは無実で～す。署名をお願いしま～す」と叫んでいた。

そこへ、某政党の街宣車が乗りつけ、解放同盟批判を大音量でやり出したのである。私たちの中には「文句言うたる!!」と言い出す者もいたが、挑発に乗らず、最後まで署名活動を続けた。

50年後の北千住駅のプラットホーム前を行きかう若い人たちは「狭山事件」のことを知っているのだろうか。石川青年は85歳になって、今も「無実」を訴え続けている。（TK）

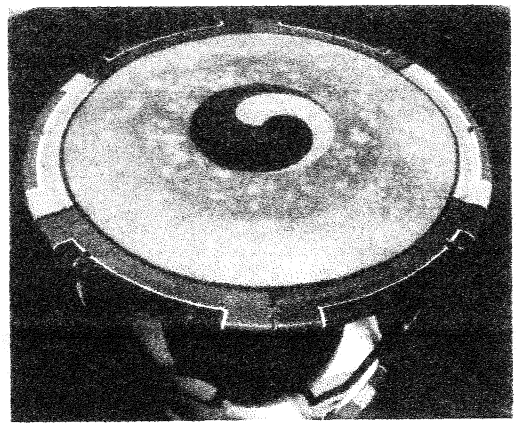
＊まもなく、10・31です。1974年10月31日、東京高裁・寺尾裁判長が石川一雄さんに無期懲役が言い渡しました。事件発生から11年後のことです。その後、最高裁に上告されますが、1977年に棄却され刑が確定しました。

先日、袴田巌さん(88)の冤罪がはらされ、無罪が確定しましたが、冤罪事件で犯人にでっち上げられるという事例は後を絶たず、現在仮釈放中の石川さんは60年もの長きにわたって、闘いを続けておられます。

（☜ 石川一雄さん・早智子さんご夫妻 ）

王林村・山城屋大吉の大銀杏 ～李政美コンサートから～

明治時代になり、鉄道が大津の町に走り、大津駅開業によって、東浦村は解体させられます。この東浦村と親せき関係になる村が膳所の王林村です。

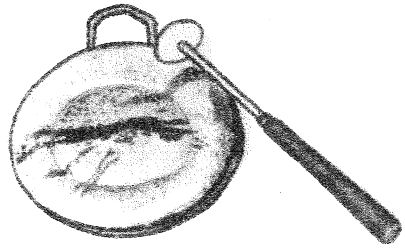


王林村は県下でも珍しい刑吏の村です。すぐ近くの膳所城の本多藩によってつくられた村です。この王林村の村頭が山城屋大吉で、何代もこの村の頭として刑吏の仕事を仕切っていました。

この大吉が地域を流れる相模川沿いに大きな銀杏を植え、現在も立派に地域のシンボルとして立っています。そして、その来歴が記された銘板が近くに立てられていたのですが、数年前に訪れてみると文字が風化して殆ど読み取れなくなっていました。

その旨を大津市議の草川さんに伝えたところ、すぐに市当局に改善するように動かれました。

先日、李政美（いぢょんみ）のコンサートで朝鮮学校に行ったついでに、大銀杏の銘板を見たら、きれいに修理されていました。やっぱり「行動」することが大事だと痛感しました。



その日のコンサートは、子どもと一緒にチャンゴやケンガリを響かせながら、心あたたまる一時でした

カムサ・ハムニダ ♥ 李政美さん。（TK）